

英語版くすりのしおり®の作成数増加に向けた取り組み ～2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて～

P-2-179

○野村香織*1、工藤香代子*2、栗原理*2、岩田孝*2、上場理江*2、内山ひろこ*2、片山厚*2、恩田威俊*2、藤原昭雄*2、北村正樹*3
 *1東京慈恵会医科大学分子疫学研究部
 *2(一社)くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会
 *3東京慈恵会医科大学附属病院薬剤部医薬品情報室

【目的】

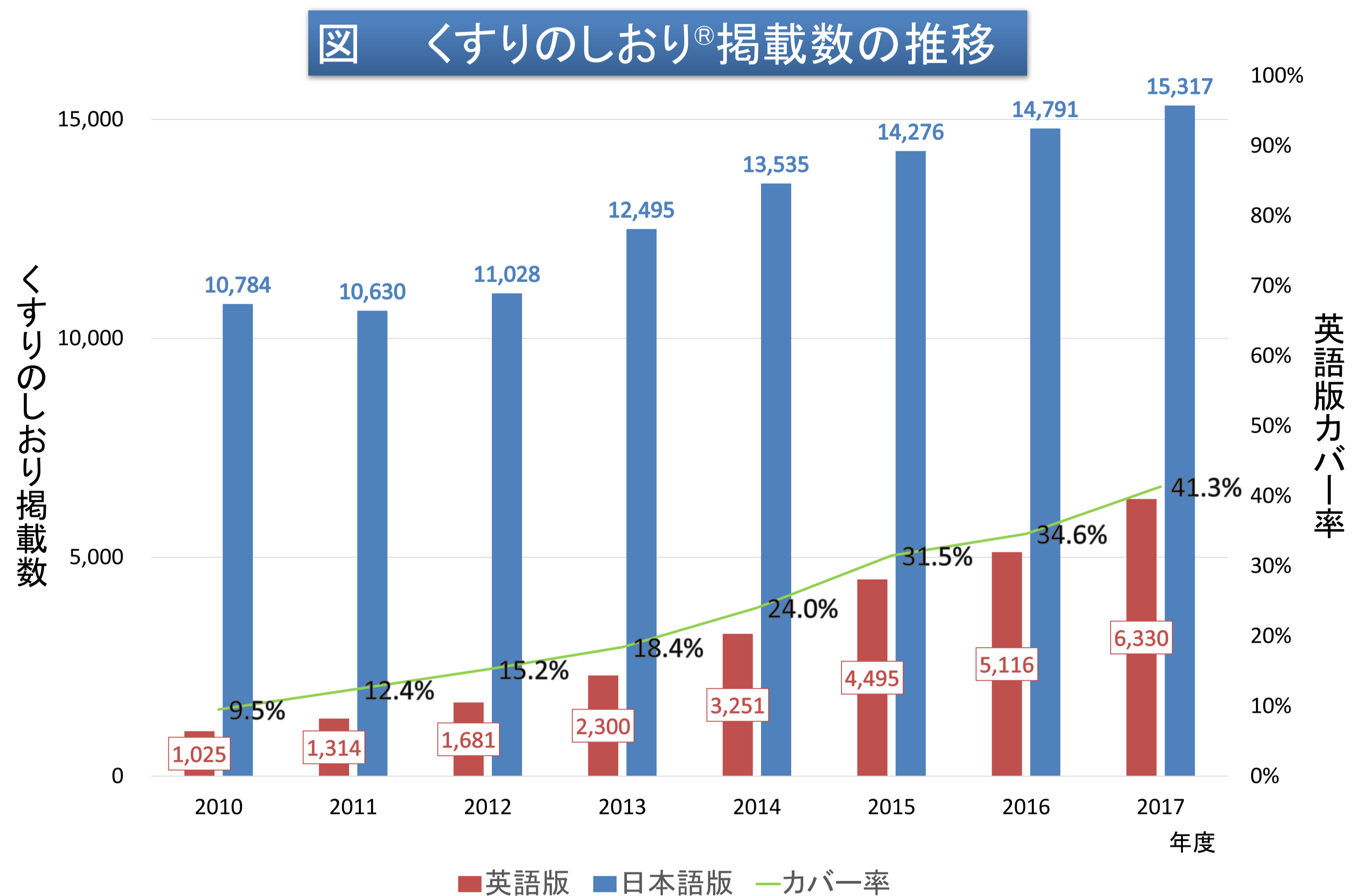
2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催にむけて、外国人観光客が急増しており、英語による薬剤情報提供の場面も増えていくことが予想される。くすりのしおり®サイトに掲載されている英語版くすりのしおり®は、薬剤師と外国人患者とのより良いコミュニケーションに役立つものと考えられることから、作成状況を把握するとともに作成推進に向けた取り組みについて検討した。

【方法】

2010年から2017年まで各年度(4月時点)のくすりのしおり®サイトにおける英語版くすりのしおり®の掲載数及び日本語版くすりのしおり®に対する作成率の推移を確認した。また、製薬企業間に作成率の差がみられることから、作成に向けて取り組むべき課題について作成担当者にインタビュー調査した。

【結果】

2017年4月時点で、くすりのしおり®サイトに掲載されている英語版くすりのしおり®は6,330件、日本語版くすりのしおり®に対する作成率(カバー率)は41.3%であった。作成数は2010年の6.2倍、カバー率は4.3倍であり経年的に増加していた。製薬企業の作成担当者へのインタビューでは、翻訳時の参考資料不足による負荷、企業における考え方と必要性についての認知度の違い、社内横断的な調整の不足等が、英語版くすりのしおり®作成を妨げている要因として挙げられた。

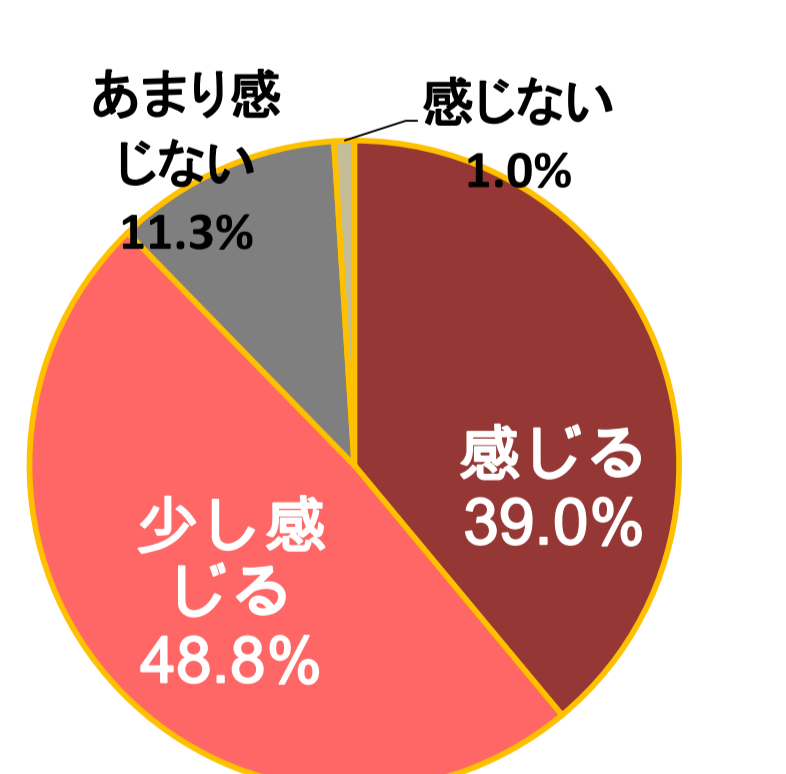


英語版くすりのしおり®作成に際しての阻害要因【製薬企業「くすりのしおり®」作成担当者へのインタビューより】

- ◆ 翻訳のための参考資料が少ない
 - 英語版くすりのしおり®作成ガイドラインの例文が少ない、用語集はあるが検索しづらい、など参考になる資料が不足している。既存の資料と整合が取れていない。
 - 翻訳の文章量に対する心理的負担があり、ハードルが高い。
- ◆ 企業内の仕組みの不足
 - 領域や製品ごとに担当者や担当部署が分かれている企業では、全体を調整・管理する役割が無い。
 - 一部製品について作成しているが、全製品に対応するにはマンパワーが足りない。
- ◆ 企業の認識の温度差
 - 会社や部署によって英語版くすりのしおり®の必要性の認識に温度差があり、作成要否についての判断が分かれている。
 - 特に注射剤について、英語版くすりのしおり®が使用されるシチュエーションを想定できない、などの理由で必要性が社内に理解されづらい。

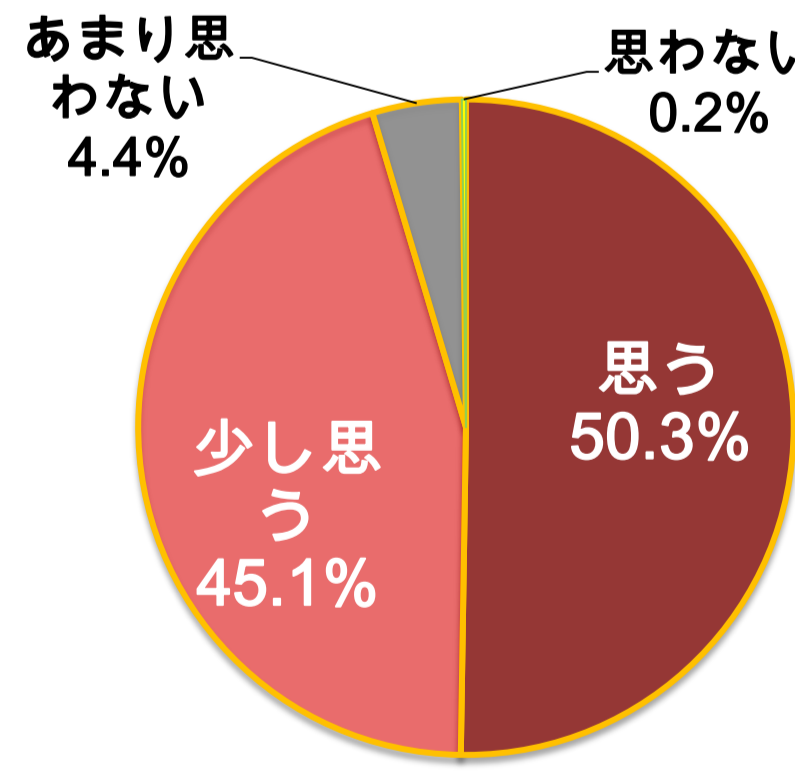
【参考資料】 くすりの適正使用協議会 調剤薬局における外国人患者への対応実態に関するアンケート調査(2014)結果 より

Q4. 外国人患者への対応に不安を感じることはありますか? (n=408)



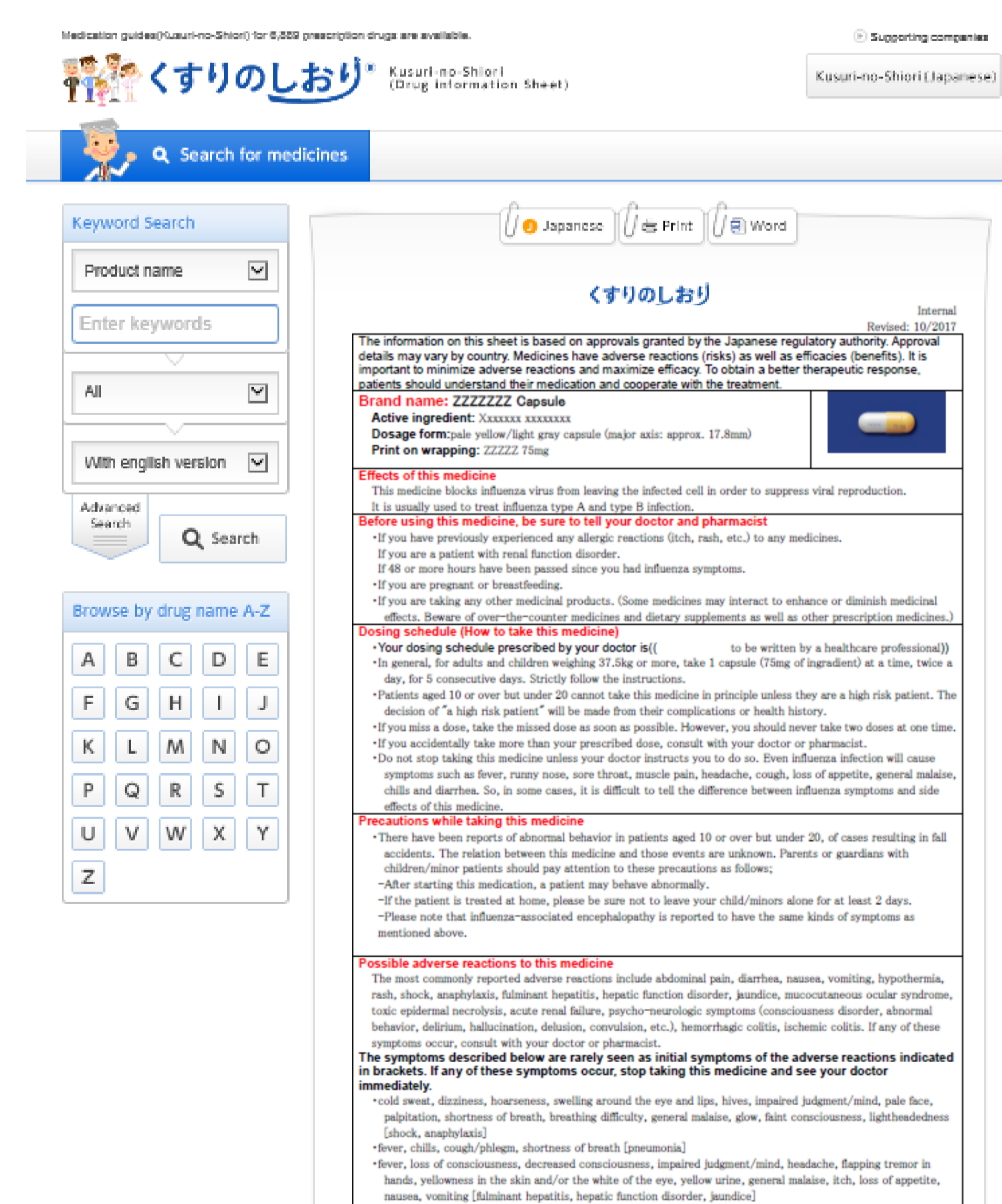
対応に不安を「感じる+少し感じる」薬剤師は88%。

Q9. 英語版「くすりのしおり®」は、英語を話す外国人患者の服薬指導に役立つと思いますか? (n=408)



英語を話せる外国人患者に対し、英語版「くすりのしおり®」が役立つと「思う+少し思う」薬剤師が95%

英語版くすりのしおり® <http://www.rad-ar.or.jp/siori/english/>



【考察】

2014年10月に協議会が調剤薬局を対象に実施したアンケート調査では、「外国人患者への対応に不安を感じる」と回答した薬剤師が88%、また「英語版しおりが役立つと思う」との回答は95%であったことから、英語による薬剤情報提供の場面において英語版くすりのしおり®は役立つツールであると考えられる。英語版くすりのしおり®の作成数は7年間で右上がりに推移していたが、カバー率は約4割であることから外国人患者への対応にはまだまだ不十分である。インタビュー調査にて挙げた作成の阻害要因については、翻訳時参考資料の整備と業務委託等による負荷軽減、くすりのしおり®サイトでのアクセス状況や薬剤師からの英語版作成要望など利用実態に基づいた必要性の認識向上等の対応策を検討することが必要と考えられた。これらの課題について取り組みを行い、2020年に向けて、更なる作成数増加を目指していきたい。